

# 第208期 第2四半期（中間期）の状況 （2025年4月1日～2025年9月30日）

大阪ガス株式会社

当社は、本年10月に創業120周年を迎えました。多くの方々のこれまでのご支援に心より御礼申し上げます。当社は引き続き、時代の変化に対応し、社会課題の解決を目指してダイナミックに挑戦してまいります。

## 1. 当社グループの業績の状況

### (1) 当第2四半期（中間期）の経営成績等の概況

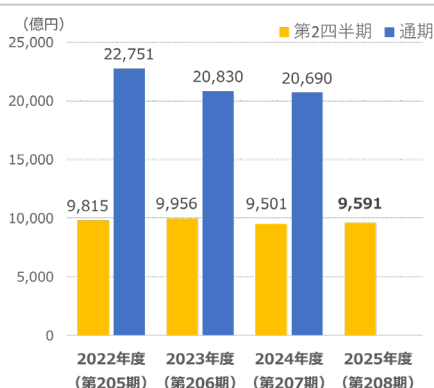
当第2四半期（中間期）における連結売上高は、前年同期並みの9,591億円となりました。（グラフ①）

連結経常利益は、国内エネルギー事業で、原料価格等の変動が販売単価に反映されるまでの時間差による増益影響<sup>(※1)</sup>が増加したことなどにより、前年同期に比べて335億円増の1,054億円となりました。（グラフ②）

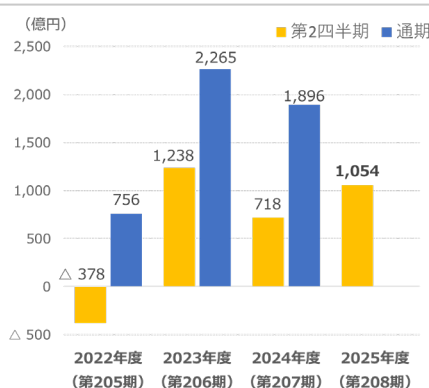
親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期に比べて440億円増の948億円となりました。（グラフ③）

(※1) 原料価格および燃料価格の変動が、原料費調整制度および燃料費調整制度に基づく販売単価に反映されるまでには一定の時間差があるため、一時的な増減要因となります。

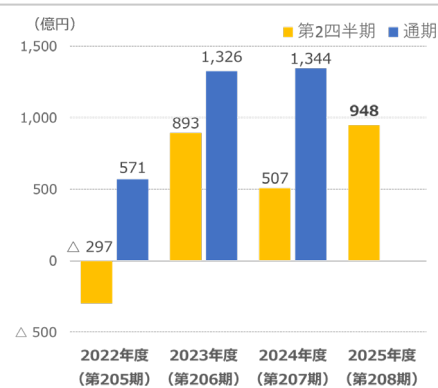
グラフ① 連結売上高の推移



グラフ② 連結経常利益の推移



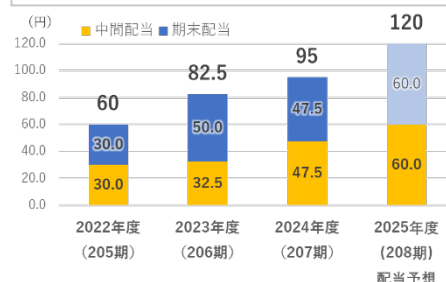
グラフ③ 親会社株主に帰属する  
中間(当期)純利益の推移



### (2) 中間配当（株主還元方針の変更）

当社は、「累進配当を基本に据えながら、業績、今後の経営計画等を踏まえ、当社個別の剰余金分配可能額の範囲内で、株主資本配当率3.0%を目指す」ことを株主還元方針としておりました。前期および当期における業績や今後の事業見込み等、一過性要因を除く利益（実力利益）が着実に向上していることを踏まえ、今後は株主資本配当率3.5%を目指すことといたしました。これに伴い、当期中間配当は、当社普通株式1株につき60円（前期中間配当に比べて12.5円の増配）といたします。（グラフ④）

グラフ④ 一株当たり配当金の推移



## 2. 事業部門別（セグメント別）の状況

### (1) 事業部門別 売上高・セグメント利益

	国内エネルギー	海外エネルギー	ライフ&ビジネスソリューション
売上高（億円）	7,758	695	1,463
前年同期比（%）	△1.6	+17.6	+7.2
構成比（%）	78.2	7.0	14.8
セグメント利益（億円）	400	451	166
前年同期比（%）	+240.6	+27.3	△5.1
構成比（%）	39.3	44.3	16.3

(注) 事業部門別の売上高・セグメント利益には、事業部門間の内部取引に係る金額を含んでおります。なお、セグメント利益には、持分法による投資利益を含んでおります。

## (2) ガスおよび電力の販売実績

家庭用の都市ガス販売量は、前年同期比 0.9%増の 5 億 4 千 1 百万  $\text{m}^3$ となりました。業務用等の都市ガス販売量は、前年同期比 3.3%増の 24 億 9 千 3 百万  $\text{m}^3$ となりました。これらの結果、都市ガス販売量は、前年同期比 2.9%増の 30 億 3 千 4 百万  $\text{m}^3$ となりました。都市ガス供給件数は、当第 2 四半期末時点で 512 万 3 千件となりました。

電力販売量は、前年同期比 3.3%増の 81 億 4 千 1 百万 kWh となりました。低圧電気需給契約に基づく供給件数は、当第 2 四半期末時点で 193 万 6 千件となりました。

## 3. トピックス

### (1) 国内エネルギー

#### <ガス>

#### ○SOEC メタネーションのベンチスケール試験装置の完成と試験実施

国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で実施している SOEC メタネーション<sup>(※2)</sup>の技術開発事業<sup>(※3)</sup>において、 $10\text{Nm}^3/\text{h}$  の e-メタンを製造するベンチスケール試験装置が完成し、試験を開始しました。

2028 年度～2030 年度にはパイロットスケール試験を進め、世界最高レベルのエネルギー変換効率（約 85～90%）を実現する e-メタン製造技術の確立を目指します。

（※2）メタネーション技術とは、水素と CO または  $\text{CO}_2$  を反応させて、都市ガスの主成分であるメタンを合成する技術です。SOEC メタネーション技術では、SOEC（固体酸化物を用いた電気分解素子）を用いて、再生可能エネルギー電力により水と  $\text{CO}_2$  を原料にメタンを合成します。

（※3）国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構のグリーンイノベーション基金採択事業である「SOEC メタネーション技術革新事業」

#### ○当社グループ新研究開発拠点の研究棟が竣工

大阪市此花区の西島地区において、当社グループ新研究開発拠点の研究棟「Daigas Innovation Center」が竣工いたしました。新研究開発拠点では、SOEC メタネーションをはじめとするカーボンニュートラル分野等、当社の研究開発機能を集約し、研究開発のさらなる推進、Daigas グループの取り組みへの理解増進、社外との交流を通じた共創の 3 点を連続かつ一体的に行うことで、Daigas グループの技術の社会実装を加速してまいります。



研究棟の外観

#### ○「hu+g MUSEUM（ハグミュージアム）」の来場者数が 200 万人を突破

本年 1 月にオープン 10 周年を迎えた、食と住まいのショールーム「hu+g MUSEUM（ハグミュージアム）」の来場者数が、累計 200 万人を突破しました。引き続き、幅広いお客さまにより一層楽しんでいただける施設を目指すとともに、食や住まいに関する様々な情報発信を通じ、お客さまの快適な生活の実現に貢献してまいります。

#### <電力>

#### ○和歌山御坊バイオマス発電所の商業運転開始および活用

和歌山県御坊市における和歌山御坊バイオマス発電所（発電容量約 5 万 kW、出資比率 35%）が、商業運転を開始いたしました。これにより、当社グループが出資参画した 8 か所のバイオマス専焼発電所が全て稼働済みとなり、合計発電容量は約 45 万 kW となりました。

また、東日本旅客鉄道株式会社との間で、同発電所の年間約 3.5 億 kWh の発電量に応じた環境価値<sup>(※4)</sup>（年間約 15 万トンの  $\text{CO}_2$  削減に相当）を提供するための契約を締結いたしました。

（※4）環境価値とは、「 $\text{CO}_2$  が排出されない」という環境面での付加価値です。



和歌山御坊バイオマス発電所  
（和歌山県）

### ○千里蓄電所の商業運転開始

伊藤忠商事株式会社、東京センチュリー株式会社と共同出資する系統用蓄電池事業である千里蓄電所（定格出力約 1 万 kW、定格容量約 2 万 kWh）が商業運転を開始いたしました。当社は、2030 年度までに、系統用・再エネ併設型をあわせて蓄電池運用規模 100 万 kW（意思決定済案件を含む）を目指し、取り組んでまいります。

## (2) 海外エネルギー

### ○米国でのシェールガス生産開発

米国テキサス州でシェールガス生産開発事業を行うサビン社（Sabine Oil & Gas Corporation。出資比率 100%）は、生産中の井戸の操業に加え、追加の井戸開発を実施しており、事業を順調に展開しております。



サビン社のシェールガス掘削井戸  
（米国テキサス州）

### ○アジアにおける事業展開

国内都市ガス事業で培った経験・強みを生かし、都市ガスインフラの整備や販売拡大、再生可能エネルギー事業等への参画を通じて、アジア諸国の経済発展とエネルギーの低・脱炭素化に貢献しています。

## (3) ライフ&ビジネス ソリューション・その他

### ○大阪ガス都市開発による資産の取得・販売

都市開発事業を展開する大阪ガス都市開発株式会社は、当期中に「アーバネックス早稲田」等の 4 件の賃貸マンションを取得したほか、同社として首都圏で 2 棟目となる賃貸オフィス「大阪ガス都市開発日本橋ビル」を取得いたしました。また、現在建設中の「シーンズ南森町」等の 3 件の分譲マンションの販売を開始いたしました。



「大阪ガス都市開発  
日本橋ビル」(東京都)

### ○株式会社オーグス総研による新サービスの提供開始

情報ソリューション事業を展開する株式会社オーグス総研は、電力市場におけるリスク管理の課題を解決するソリューション「EneRisQ（エネリスキュー）」をクラウドサービスとして新たに提供開始するなど、総合的な IT サービスの提供やお客さまの DX 推進支援に努めました。

### ○大阪・関西万博におけるメタネーション実証設備「化ける LABO」での取組みに対する表彰

当社は、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の「化ける LABO」において、会場内で発生する生ごみ由来のバイオガス中の CO<sub>2</sub> 等と再生可能エネルギー由来の水素を原料とした、メタネーション技術の実証事業<sup>(※5)</sup>を実施しました。一般社団法人日本ガス協会が出展した「ガスバビリオン」と併せ、多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。

「化ける LABO」および「ガスバビリオン」における脱炭素に関する取組みは、2025 年日本国際博覧会協会が選考する「持続可能な取組みに関する表彰（脱炭素部門）」において、それぞれ表彰されました。

（※5）環境省の委託事業である「既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」

### ○当社従業員の「挑戦と成長」を後押しするための人事関連制度の導入・拡充

当社は、中期経営計画の重点戦略の 1 つである「従業員の輝き向上」に資する取り組みの一環として、本年 10 月より、従業員の「挑戦と成長」をより一層後押しする新たな人事関連制度を導入・拡充いたしました。

引き続き、会社と従業員の双方向のコミュニケーションを通じて、人材関連の取り組みを活性化し、従業員と会社が成長しあう関係の構築に努めてまいります。

以 上